

小牧市民病院を受診された患者さんへ

当院では下記の臨床研究を実施しております。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で診療情報等を研究目的に利用されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にお問い合わせ下さい。

研究課題名 (承認番号)	経尿道的膀胱腫瘍切除術における術前尿培養の有用性および術後感染症のリスク因子に関する検討 (251027)
当院の研究責任者 (所属)	大西 克浩 (薬局)
他の研究機関および 各施設の研究責任者	森岡 悠 (名古屋大学医学部附属病院 中央感染制御部)
本研究の目的	<p>経尿道的膀胱腫瘍切除術 (TURBT) は低侵襲な手技であり、感染症の合併率は低いことが報告されています。本邦および海外のガイドラインでは、経尿道的処置前の術前尿培養 (PUC) の採取を推奨しており、培養および感受性検査の結果に基づいた適切な治療を行った上で手術を実施することが望ましいとされています。しかしながら、PUC を実施することによって TURBT 後の感染症の発症を予防できるかどうか、また、全ての患者さんに対して PUC で実施する必要があるかについては、いまだ分かっていません。さらに、どのような患者さんが TURBT 後に感染になりやすいのかについても十分に分かっていません。</p> <p>そこで本研究では、TURBT における PUC の有用性を明らかにすることを目的として、PUC から細菌が検出された患者さん、されなかった患者さんにおける感染症の発症率の違いや、TURBT 後の感染症を発症する患者さんの特徴について明らかとすることを目的としています。</p>
調査データ該当期間	2019 年 4 月 1 日から 2026 年 3 月 31 日まで
研究の方法 (使用する試料等)	<p>●対象となる患者さん</p> <p>小牧市民病院において 2019 年 4 月 1 日から 2026 年 3 月 31 日の期間に TURBT の PUC を実施した患者さん。なお下記の患者さんは対象外としています。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 17 歳以下の患者2. TURBT 後の経過が不明な患者3. PUC 実施の 14 日前に抗菌薬の曝露を受けた患者4. TURBT 後 14 日以内に TURBT 関連感染以外で抗菌薬を使用した患者5. TURBT 前から発熱が認められた患者 <p>●利用する情報</p> <p>年齢、性別、喫煙歴の有無、既往歴、TURBT 前の入院歴および入院期間、術前のステント留置および留置期間、骨盤放射線治療歴、糖尿病薬、免疫抑制薬の内服の有無、身体所見 (体温、血圧、脈拍、呼吸数、酸素飽和度、身長・体重 (BMI))、血液学的検査 (白血球数、HbA1c)、尿沈渣 (白血球数、細菌尿の有無)、TURBT の 2 ヶ月以内の PUC、TURBT 後 7 日以内の血液および尿培養の結果、術前に使用した予防抗菌薬、手術時間、腫瘍サイズ、壊死性腫瘍の有無、過去の TURBT 歴の有無、ASA SCORE、尿培養の費用 (感受性試験の費用を含む)、感染によって追加でかかった医療費</p>
試料／情報の 他の研究機関への提供 および提供方法	該当なし

個人情報の取り扱い	この調査から得られた情報を患者様が安全に前立腺生検を行うためにフィードバックしたいと考えています。具体的には、学会での発表や論文への投稿になります。一方、調査した結果は個人のものとしてではなく、集団の平均としての情報が使用されます。そのため、個人を特定できるような情報が公表されることはありません。
本研究の資金源 (利益相反)	本研究に関連し、開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。
お問い合わせ先	愛知県小牧市常普請 1-20 小牧市民病院 電話：(0568) 76-4131 担当者：
備考	